

家事・ケアの自動化技術に対する消費者需要：

現実の労働時間や収入でどう異なるだろうか

Demand for Automated Domestic Work Devices:

How the consumer demand differs by gender, actual work hours and income

永瀬伸子（お茶の水女子大学基幹研究院）

臼井恵美子（一橋大学経済研究所）

Ekaterina Hertog（オックスフォード大学インターネット研究所）

キンセン（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科）

AI や ICT の利用は、働き方を大きく変えているが、家庭内の家事やケアも大きく変えていく可能性が高い。

本研究は下記のタイトルで日英共同研究として 2020 年から 2023 年にかけて「AI 等テクノロジーと世帯の無償労働の未来：日英比較」として実施してきたものである。日本側は JST-RISTEX による競争的資金 2020-2023 年：代表者 永瀬伸子であり、英国側は UKRI による競争的資金 2020-2023 年：代表者 Ekaterina Hertog の助成を受け、日英共同採択の形で行われたものである。

日英の専門家に対して、5 年後、10 年後の家事の自動化について技術的な側面から予測をしてもらったところ、食料品の買い物は 10 年後には時間の 59% が短くなる、銀行などのサービス利用も 52% 時間が短くなる、掃除は 46%、料理は 46%、子どもの教育は 40%、介護は 35%、子どもの身体的ケアは 20% の時間が節約できるといった予測であった (Lehdonvirta et al 2023)。

ではこのような技術があるとして、消費者はこうした技術を使いたいと考えるだろうか。まずこうした技術を使いたいかどうかの分析を行う。続いて、どの価格であれば利用したいかという設問に対する回答の分析を行う。

20-74 歳の男女に対して、17 の家事について、デルファイ調査で示された内容、すなわち、たとえば料理については、専門家が消費者に対する調査を行った。以下のような例示となる。

○近い将来、家の掃除や片付けに要する時間を、今よりも世帯あたり 34% 減らす、AI やロボットなどの自動化技術（ス

マートテクノロジー) が実現する可能性があります。そのような技術があったとしたら、あなたのご家庭での利用を検討しますか。(「家の掃除や片付け」に含まれる家事の例 (近床の掃除、寝具の片付け (ベッドメイキング)、ほこり払い、家庭用品の整理、浴室清掃、台所清掃、ゴミ分別・ゴミ出し、および室内植物への水やりなど)

○家の掃除や片付けを 34%自動化する技術に対し、年間に支払ってもよいと思う価格の**最高額**はいくらですか? 下記より 1つだけお選びください。 以下、年間 15000 円以下から年間 15 万円以上まで 11 段階で尋ねる

研究発表では、誰がこうした 17 種類の家事技術を利用したいと考えるか、男女の差や、女性の働き方の差や家庭内の実際の家事分担による差があるのか、また使いたいとした者は半数程度であるが、こうした者は、どのような価格で需要するのか、属性による差と家事による差についての分析を行う。